

小田原史談

第95号

発行所 小田原史談会
小田原市南町3の21

昭和五十三年度事業報告

- 一、五十三年度の通常総会
は四月十六日に開く。
- 一、五月十三日 定例理事
会、五十三年度の事業
計画其の他
- 一、六月十日 定例理事
会
- 一、七月 八日 定例理事
会、潮来方面史跡めぐ
り収支報告、講演会の
打合せ其の他
- 一、八月十九日 講演会、
「名校長阿部宗孝先生
を語る」県立小田原中
学校の八幡移転と其の
前後、講師 杉山博先
生
- 一、九月 九日 定例理事
会
- 一、九月十二日 沼津・千
本松原方面史跡めぐり
四十八名参加
- 一、十月十四日 定例理事
会、後講演会「中世の
交通・酒匂川の渡渉に
ついて」講師 宇佐美

小田原史談会53年度決算書及54年度予算書

53年度決算書		54年度予算書	
収入の部		収入の部	
繰越金	614,808円	繰越金	377,828円
会費	505人 606,800	会費	1,500円×500 750,000
市からの補助	24,000	市からの補助	25,000
預金利子	4,995	預金利子	5,000
雑収入	38,700	雑収入	10,000
計	1289,303	計	1167,828
支出の部		支出の部	
通信費	236,560	通信費	200,000
会報印刷代	211,200	会報印刷代	200,000
		特別原稿料	30,000
講師謝礼	45,000	講師謝礼	50,000
交際費	46,500	交際費	50,000
事務用品	45,715	事務用品	50,000
事務手当	240,000	事務手当	240,000
期末特別手当	52-2万 53-2万 53-1万 50,000	期末特別手当	50,000
会議費	24,950	会議費	50,000
雑費	11,550	雑費	50,000
		予備費	197,828
計	911,475	計	1167828
残金	377,828	計	1167828

ミサ子先生
一、十二月九日 定例理事
会、新年初詣史跡めぐ
り、新年会其の他

一月十八日 定例理事会
閉会后新年会
二十八日 相模観音め
ぐり、第一回 八十三
名参加

会員の皆様には御通知し
た如く、昭和五十四年度の
通常総会を、四月廿八日午
後一時より、小田原市中央
公民館にて閉会して、盛会
のうち閉会となり、後は講

演会に移り、「北条政子を
語る」の演題により、中野
敬次郎先生のお話しを聞き
深い感銘を受けました。
当日、御讃同を得ました
本年度の、事業計画を簡単
に記しませう。

史談会情報

二月十日 定例理事会
新春初詣坂東三観音
めぐり報告、講演会其
の他
三月十日 定例理事会
廿一日 第二回坂東
三観音めぐり
四月十四日 定例理事会
通常総会、第二回観音
めぐり報告其の他

一、会報は前年通り発行し
して、本年は特に内容
の充実を計って行く。
一、史跡めぐりも前年通り
行い、市内の史跡めぐ
りについては、特に仏
像を主眼に歩く。講演
会も前年通り行い、講
師は皆様の意向を尊重
して。

史蹟めぐり特別会計

日	内容	人数	入	出	△
6月・25日	潮来水郷めぐり	36人	468,000	489,847	△21,847
9・22	沼津千本松原方面	48	120,000	117,240	2,760
1・28	第1回坂東観音めぐり	83	249,000	213,550	35,450
3・21	第2回坂東観音めぐり	79	237,000	197,400	39,600
	計		1074,000	1018,037	55,963

を調査する事、城下町
の懐かしい、意義ある
町名が忘れられようと
しているのので、それを
歩いて調査して、後其
の後の具体的表現は理
事会で協議する。

前年より繰越金(七八、九
二九円)本年残金(五五、
九六三円)計一三四、八九
二円は次年度に繰越

一、明年、源頼朝石橋山葬
兵八百年祭についての
行事に参加する。
二、会費値上げの事、会報
誌の印刷その他通信事

「相生の松」に思う

田村 隆

務用品の値上りにより
年千二百円を、恐縮で
すが千五百円に(一年
間)になりました。

祝言謡曲「高砂」の中に
「相生の松」が出て来る。
曾我の里にも「相生の松」
があった。ソウ、六十何年
前までは健在であったが
現在は松に代って石碑があ
る。

さて曾我の「相生の松」
とは何ぞやとの問いかけに
対して、曾我の里人でも、
知らないと言う人が意外と
多い、間違えて答える人も
これまた少なくない。私自身
も数年前はその仲間の一人
であった。

正解は次の「相生の松」
の碑文である。
建久四曾我祐成と妻虎相
別也相携種松焉以為記念年
所幾百有野火之災里人復植
焉紹其跡名謂相生乃松松与
年相長幹枝繁茂亨々摩天蔽
地敷弓行人見以為標識騒音
客低徊為追懷之資大正元年
再罹災乃相議建碑以謀旧趾
之永伝云爾

大正二年四月 曾我谷津

曾我原
碑文の作者は尾崎八束氏
と伝えられている。氏は、
昭和五十三年度の文化勲章
授授の栄に輝く作家尾崎一
雄先生の敵文である。

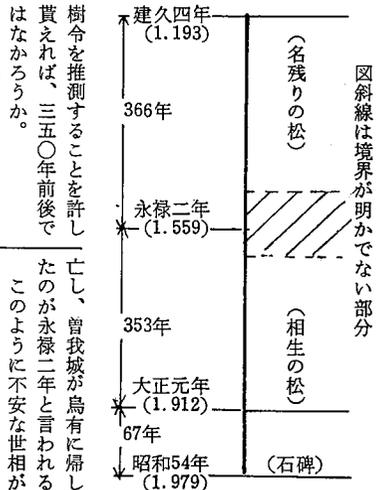
さて碑文に前書きや説明
を附け加えて、書き直しを
許して戴くことにしよう。
建久四年、曾我兄弟(兄
十郎祐成、弟五郎時致)
は、亡父の仇を討つべく
富士の裾野に出立する時
が迫った。そんな心忙し
いある日のこと、十郎は
愛人虎女を、曾我の里の
自宅に伴い、今生の別れ
を惜しんだ。翌日、十郎
は虎女を送って山彦山に
差し掛けて小休止をし、
兩人各自に小松を探し出
して記念の植樹をする。

(以下、この松を「名残
りの松」と仮称する。)時
去り年過ぎて幾百年
「名残りの松」は野火に
あって消滅した。里人は

その跡つぎの松を植えて
「相生の松」と名づけた
松は年と共に成長し大樹
となった。大正元年「相
生の松」もまた罹災した
ので、相談して碑を建て
旧趾が永く伝わるように
取り計らった。――
以上が碑文の大意である
が、その中で大切なことは
「相生の松」は二代目で、
その前に初代の「名残りの
松」があったことである。

「名残りの松」についての
記載はこの碑文以外に見当
らない。以下「名残りの
松」に焦点を合せながらこ
れ等二対の松について検討
してみたい。

「相生の松」については
この碑文の外に「下曾我田
島郷土史」にも記載がある
また本会報では、内田武雄
氏、神保西蔵氏の記載があ
る。ことに神保西蔵氏は少
年期に実現よく記憶して
おられる。これ等を総合し
て見ると、「相生の松」は
根廻りが三抱え程もある大
樹で、二本の松が根本で一
体となった珍らしいもので
これが「相生の松」の名称
となった理由でもある。



樹令を推測することを許し
貰えば、三五〇年前後で
はなかるうか。
大正元年から三五三年さ
かのぼると、曾我の里に取
って大厄(後述)の永禄二
年となる。さちに三六六年
さかのぼれば建久四年とな
る。これを図で示して見る
と「名残りの松」と「相生
の松」とは同樹令となるこ
とが判る。
さて永禄年間と言えば、
世はまさに戦国時代で、中
央政府の威令はさらに行わ
れず、群雄は各地に割拠し
て互に合戦に明け暮れ、
野盗は随所に出没して、世
情騒然としていた時代であ
る。小田原地方もこの例に
もれず、北条氏が各地に転
戦し領地の拡張を計ってい
た最中で、時には逆に、武
田信玄に攻めこまれたもの
この頃である。曾我の里に
おいては、曾我兄弟の養父
祐信以来の名門曾我氏が、
北条の武將に攻められて滅
亡し、曾我城が烏有に帰し
たのが永禄二年と言われる
このように不安な世相が
続く中で、そして現代のよ
うな観光、文化財保護の観
念のない時代とあっては、
とても山中の焼けた松を顧
る余裕はなかった筈である
それなのに松を復元させよ
うと言う心境に里人をかき
立てたのは、一体何であっ
たらうか。それは「名残り
の松」が、ただの松でなか
ったからである。
建久四年から年を経るこ
と三百幾十年。この間に、
曾我兄弟の遺品遺物の大方
は、散逸したり、焼失した
り、あるいは腐朽して、そ
の姿を消してしまった中で
「名残りの松」だけが、郷
土の誇りとして健在であっ
た。そして「名残りの松」
こそは、十郎と虎女の血が
通った真正正銘の遺物と信
じて疑わなかった。その信
念から、身代わりの松を残
そうとしたものではなかる
うか。

ところで、手元にある「
曾我物語」の「山彦山まで
虎を送る」のくだりには、
松を植えたと言う記述が見
えない。他の数種の「曾我
物語」にも見当たらない。察
するに、「名残りの松」は
事件後に虎女自らが語った
実話が元となって、それを
同行した従者(團三郎)が
裏附けして拡がったもので
はなかるうか。そして、曾
我の里にあっては、「名残り
の松」と「相生の松」と
の存在によって、十郎と虎
との恋物語は、生々として
子々孫々に語りつがれて来
たのであるうか。ここに解
明すべき宿題が残されてい
る。

「相生の松」が消えて六
十余年。もう松の故事来歴
は忘れられようとしている
しかし、山彦山の石碑は、
風雪に耐えて、碑文は鮮や
かに浮かび、昔々の真相を
秘めたままに黙々として立
っている。改めて石碑の価
値を見直すのではないか。
なお、石碑の在る場所は
六本松から下曾我に向つて
ハイキングコースを降り、
脇路を少し入ったところで
ある。

PETA爪哇を行く

西山 銈太郎

三 指導官探し

インドネシアでは今、国軍史の調査編纂が進められている。インドネシア国軍史を論ずるには義勇軍を除いて考えられない。それで

元小田長出身の、R・ストジョ中佐や、又シンガポール在住の人も馳せ参じた。

昭和五十三年、インドネシア共和国は独立三十三年を迎えた。此の第三十三回独立記念式典に参列し、曾

友情を温め、独立戦争の戦没者に敬意を表し且つその霊を慰めるを目的として、私共PETA関係者はイン

ドネシア訪問団を結成した。これは通常の観光団とは全くその趣を異にするものである。

元指導官等と数名の婦人達の五十五名に依って結成されたこの「訪イ団」に、私も元指導官の故を以ってその一員となった。

昭和五十三年八月十日、成田・大阪の両空港から出発香港で合流した訪イ団は同夜二時二〇分(日本とは時差二時間)ジャカルタハリム国際空港着、出迎えの関係者と各種報道陣のフラッシュの放列の中に降り立った。爾後私達の行動は逐一総てのマスコミに依って報道された。

四 訪イ団結成

訪イ団は往復を除き、バリ島二日、ジョクジャカルタ二日、ジャカルタ四日の計画だった。私達バンドンゆかりの七名は、バリ・ジョクジャ各一日、バンドン二日を計画した。随ってそれは非常な強行スケジュールとなった。前日日本で四時に目覚め、ジャカルタ着

ホテルで寝たのは二十四時過ぎ、日本時間なら午前二時すぎだった。それ間半後にバリ島行の為め四時間半後にはもう起きなければならなかった。

バンドングループは寝ぼけ眼で朝食、不必要な荷物

はホテルに預け、昨夜のハリム空港へと急いだ。バリ島經由東京行ガルーダ航空は余り知られてないので席はとり易いとか。天気は上々雲少く、右窓側の席からは北海岸上空からのジャワ島がよく見えた。

ジャワ島は火山が多く所謂ジャワ富士が多く各処に美しく見える。太陽は北側にあるので右下の陸地を東進する飛行機の影は大変面白い。ジョクジャを過ぎたと思はれる頃、大平原をウネ／＼と長く続く川は、多分ブンガワンソロであろうと一人で決め、戦争中覚え

たBENGAWANを思はず口ずさんだ。平原を流れるソロ河の近くには椰子の木が多い。椰子の木ののある処は又部落でもある。

パリの島は東京十崎玉程の面積で、人口は二五〇万と云はれ、農・畜・漁業の島である。案内書等は南海の楽園等と書いてるが開発を抑制され、椰子より高い建物

五 バリ島

法律の出来だと言う事である。法律の由来から云うと、英

国系の資本に依り建てられたビルが、空港ビルと共に近代建造物らしさを示す只二つのビルである。我々の宿泊ホテルは百五〜六十室

もありながら、広大な面積の椰子林の中に、バンガローの如く、モーターの如く点々と建てて居た。私共は隣番号室の仲間を探すが苦勞した。婦人は昔ながらのサロン・裸足で、つま取った稱徳を頭上にのせて運び、農家では竹の棒を杵にしてト／＼／＼と籾を落して

私達は爪哇島で三十余年前に見たそのまゝの姿を再び見た感じだ。

バリ島に前年二ヶ所出来たと云う交通信号のある十文字路へ出た。車、特にオートバイは物凄い数である。三輪車のバスも通った。その夥しい数の車の殆んどが日本製である。

観光団の誰もが行く高原のキンタマーニへ行つた。こゝの天気は気まぐれだと云うが、目的の一七一一のバテニール山は、一寸の間見る事が出来た。昼食をしてたらこゝのレストランに、沖繩出身の平さんと云う日本人が居た。ヒリピンで終戦を迎え、脱出してジャワに渡り独立戦争に参加したと云う。前年私の在爪哇当時の戦友が訪れた時にも、大変お世話になったと云う事である。私はここに

も歴史を大きく動かした原動力の一人が、ヒッソリと居る事を知った。

六 ジョクジャカルタ

十二日八時五分、バリ島から一時間のジョクジャカルタ空港に降り立った。インドネシアの観光旅行には欠かせない中部爪哇の古都である。独立戦争中一時此の町が首都となり大統領官邸が置かれた。そしてスハルト中佐の指揮する大部隊及びゲリラ隊と、オランダ軍とで首都の争奪戦が行はれた

此の周辺にはポロブドールを始め、何百と云う多数の寺院がある。何れも千年から千二〜三百年も昔のもので、火山灰の中から極く最近に発見されたものもある。史談会々員の方々は非一見をおすすめしたい。

ポロブドールは世界最大の仏跡で、ユネスコの援助を得て各処で修復工事がなされている。今始めて此の

目で見、此の足で登って目で、今更ながら其の大きく高いのに驚いた。世界各国の観光客で賑はって居り、「なんて外人の多い事か」と思うが、自分自身が外人なのである。それ程に日本人観光客も亦多い。次のプランバナンはヒンズー教寺院で、彫刻は前者よりも遙かに美しいと云はれている。私は此の古都に義勇軍指導官として満四ヶ月勤務したが、遂に訪れる機会を失し、今回三十数年振りに念願が果たされた。

夕方ホテルに着いた。此の附近は郊外の淋しい処だったがすっかり新興開発地の様相を呈している。幅員だけをとってまだ整備されていない道路に人と車がごった返している。夕食には間がなかったので、私は一人市中へ出かけた。ホテル前の道路を右へ行くと、やがて高い塔の建っている大きい十字路へ出た。物凄い交通量で今は交通信号機が設置されているまっすぐ行けば鉄道線路を越し、市の目抜き通りを経て

ジョクジャ侯の王宮につき当る。

私は思い出の十字路の塔をカメラに納めた。白かった塔は今は黄色に塗り替えられた。私は感慨深げに眺めた。すると学校帰らしい二人の女の子が、私の

七 爪哇の歴史

爪哇の歴史は、今、国軍史の調査編纂が進められている。インドネシア国軍史を論ずるには義勇軍を除いて考えられない。それで

元小田長出身の、R・ストジョ中佐や、又シンガポール在住の人も馳せ参じた。

昭和五十三年、インドネシア共和国は独立三十三年を迎えた。此の第三十三回独立記念式典に参列し、曾

友情を温め、独立戦争の戦没者に敬意を表し且つその霊を慰めるを目的として、私共PETA関係者はイン

ドネシア訪問団を結成した。これは通常の観光団とは全くその趣を異にするものである。

元指導官等と数名の婦人達の五十五名に依って結成されたこの「訪イ団」に、私も元指導官の故を以ってその一員となった。

昭和五十三年八月十日、成田・大阪の両空港から出発香港で合流した訪イ団は同夜二時二〇分(日本とは時差二時間)ジャカルタハリム国際空港着、出迎えの関係者と各種報道陣のフラッシュの放列の中に降り立った。爾後私達の行動は逐一総てのマスコミに依って報道された。

八 爪哇の歴史

爪哇の歴史は、今、国軍史の調査編纂が進められている。インドネシア国軍史を論ずるには義勇軍を除いて考えられない。それで

元小田長出身の、R・ストジョ中佐や、又シンガポール在住の人も馳せ参じた。

昭和五十三年、インドネシア共和国は独立三十三年を迎えた。此の第三十三回独立記念式典に参列し、曾

友情を温め、独立戦争の戦没者に敬意を表し且つその霊を慰めるを目的として、私共PETA関係者はイン

ドネシア訪問団を結成した。これは通常の観光団とは全くその趣を異にするものである。

元指導官等と数名の婦人達の五十五名に依って結成されたこの「訪イ団」に、私も元指導官の故を以ってその一員となった。

昭和五十三年八月十日、成田・大阪の両空港から出発香港で合流した訪イ団は同夜二時二〇分(日本とは時差二時間)ジャカルタハリム国際空港着、出迎えの関係者と各種報道陣のフラッシュの放列の中に降り立った。爾後私達の行動は逐一総てのマスコミに依って報道された。

九 爪哇の歴史

爪哇の歴史は、今、国軍史の調査編纂が進められている。インドネシア国軍史を論ずるには義勇軍を除いて考えられない。それで

元小田長出身の、R・ストジョ中佐や、又シンガポール在住の人も馳せ参じた。

昭和五十三年、インドネシア共和国は独立三十三年を迎えた。此の第三十三回独立記念式典に参列し、曾

友情を温め、独立戦争の戦没者に敬意を表し且つその霊を慰めるを目的として、私共PETA関係者はイン

ドネシア訪問団を結成した。これは通常の観光団とは全くその趣を異にするものである。

元指導官等と数名の婦人達の五十五名に依って結成されたこの「訪イ団」に、私も元指導官の故を以ってその一員となった。

昭和五十三年八月十日、成田・大阪の両空港から出発香港で合流した訪イ団は同夜二時二〇分(日本とは時差二時間)ジャカルタハリム国際空港着、出迎えの関係者と各種報道陣のフラッシュの放列の中に降り立った。爾後私達の行動は逐一総てのマスコミに依って報道された。

爪哇の歴史は、今、国軍史の調査編纂が進められている。インドネシア国軍史を論ずるには義勇軍を除いて考えられない。それで

元小田長出身の、R・ストジョ中佐や、又シンガポール在住の人も馳せ参じた。

昭和五十三年、インドネシア共和国は独立三十三年を迎えた。此の第三十三回独立記念式典に参列し、曾

友情を温め、独立戦争の戦没者に敬意を表し且つその霊を慰めるを目的として、私共PETA関係者はイン

ドネシア訪問団を結成した。これは通常の観光団とは全くその趣を異にするものである。

元指導官等と数名の婦人達の五十五名に依って結成されたこの「訪イ団」に、私も元指導官の故を以ってその一員となった。

昭和五十三年八月十日、成田・大阪の両空港から出発香港で合流した訪イ団は同夜二時二〇分(日本とは時差二時間)ジャカルタハリム国際空港着、出迎えの関係者と各種報道陣のフラッシュの放列の中に降り立った。爾後私達の行動は逐一総てのマスコミに依って報道された。

胸の「PETA・KAI」のバッジを見て「オー、ベタ」と云った。私は早速三十余年前此の附近に義勇軍が駐屯した事を知つてるかと思ふ。知らないと思ふ。私のカメラを見て写して呉れと云う。これは帰国後に送ってやう。

十字路を右に曲ると間もなく左側に兵舎があつたのである。私はその附近へ行つて、義勇軍の兵舎跡はと聞いたが誰も知らなかつた。附近は普通住宅が建ち並んでとても兵舎跡を思はず様な何物もない。更に行き過ぎる程に行つたが何等記憶に残るものはない。三十年の時の隔りは、私共が汗を流した歴史をすっかり何処かえ忘れさせてしまつた。

門柱二本だけ建てた營門、その右の門柱には私が書いた「郷土防衛シヨクジ 義勇軍」のヤカルタ侯地第二大団の表札がかかると、その前の歩哨、左門柱の内側の衛兵所その真正面の大団本部事務室、事務室から道路に添つて大団長室、指導官室が四室、私はその三室目に一人で入つてた等々が思い出される。

日本軍の下士官は礼式上は、義勇軍の大団長と中団長の中間に位したので、指

導官の下士官は、その義勇軍に於ては総て将校の待遇だつた。執銃者は捧銃、衛兵は敬礼をし、歩哨線は通行自由だつた。中団長以下は直屬上官に対する敬礼をした。然し任務の遂行には苦勞した。将校以下六名の指導は炎天下演習の指導の行き、下士官で先任だつた私が事務室入りとなり、独立大隊編成の本部事務一切を十余名の小団長分団長を指導して処理した。人を呼ぶ様な事でも電話口へ呼び出されたりして仕事が出来ない。止むを得ず夜九時や十時迄は珍らしくなく、時には二時三時に及んだ事も屢々だつた。三度の食事は指導官と義勇軍將校は会食だつた。食生活の異なる日本人指導官は業者へ注文してもよかつたが、大団では総て同じ物を一しょに食べた。

それ等の事が昨日の出来事の様思い出され、しばし佇んで過ぎし昔を偲んだ七バンドンよ、

又来たよ 十三日八時四〇分発、一時間後ジャカルタハリム空港着、二日間に増えた荷物

はホテルへ残し、代りに背広を持った。バンドン行はクマヨラン空港からで、三分余り遅れて一三時すぎにやうと発進した。速度を

早めたが上昇せずすぐに停止してしまつた。機械の故障だから降りて呉れと云う出口の処でステューデスにテダバグ(だめ)かと思つたら笑つた。一時間程の後に代りに乗つた。今度は順調に飛び立つた。大勢の者が拍手をして、どつと明るい笑い声があつた。三〇分後バンドン上空に達した。

昭和二十一年六月、オランダ機に依つてジャカルタへ送られる時に「さあ、バンドンとも永久のお別れだよ。バンドンへ」と云つた。だからよく見ておけよ」と遠ざかるバンドンの街々をくいく入る様に眺めた。我々の前途には荒廃した祖国再建の大任務が待つてゐた。其の任務ははかり知れない艱難苦難の連続だらうと思つた。それが今日の平和的経済大国と云はれる迄になつた。その永久のお別れだと思つたバンドンの街々が見え、乗機の降下と共に次に私共が迫つて来た。満四年間駐屯した思い出のバンドンへ、三十二年振り

再び訪れる事が出来た「バンドンよ、又来たよ」と思わす下腹に力が入つた。空港にはバンドン市長代理とバンドングループの中心の二名が迎えに来て呉れた。一同市長差廻しの車

で、宿舎サポイホームホテルに入った。爾後我々ジャカルタのホテルで本隊に合流する迄、一切の行動はバンドン市長配慮の車に依つた。

終戦直後英国インド師団が日本軍の武装解除の爲めに上陸して来た。インドネシアの独立運動が激しく英印軍には市中の警備が出来ない。英印軍とインドネシア軍の間には、屢々戦闘が交はされた。インドネシア人は「日本は一週間で爪哇島を取つたのに、イギリスは半年でバンドン市半分だ」と笑つた如く、英軍は市中を東西に走る鉄道の北西部のみで南部へ進出出来な

い。止むを得ず勝つた英軍は負けた日本軍に警備を命じた。私の属する独立歩兵第一五二大隊第二中隊は、此のホテルホームに警備本部を置き、ホテルのすぐ東ブリアンガンホテルと、バンドン駅西隣チロヨン貨物駅に各一ヶ小隊、ホテル左前大和会館と、その西方二〇〇米の地点横浜正金銀行に夫々曹長の指揮する一ヶ分隊を配して警備にあつた。私は大和会館の指揮に任じた。しびれをきらした英軍は、三月二十四日夜半を期限として、インドネシア軍のバンドン撤退を命ずる最後通牒を發した。同

夜二〇時、電話局爆破を合図に英軍は自らの手で市中を爆破炎上、涙をのみ、巻土重來を期して一時バンドンを去つた。

警備の爲め私が何十日かを過した大和会館は、本名ホテルコンコルディアと云はれ、スカルノ大統領に依つて第一回アジア・アフリカ会議即ちバンドン会議がここに開かれて、一躍世界にその名を知らしめた。現在ホテルホームとの間を東西に走る幹線道路は「DJALAN ASIA AFRIKA」(アジア・アフリカ通り)と云はれてゐる。

此のホテルホームに三十余年後の今日、宿泊客としての己を見て、今更ながら時の流れに無量の思ひだつた。思い出の処をカメラに納むべく市中へ出かけた。旧蘭印軍司令部で、第二師団司令部等を経て、終戦時独立混成第二十七旅団司令部に於つた建物の前へ行つた。昔ながらの建物は黄色に塗り替へられた。カメラを向けたら衛兵所からニコニコしながら飛んで来て、写真はいけないと云う。PETAのバッジをつけてたので怒られなかつたのだらう軍関係は一切撮影罷りならぬのだそらうだ。夕食は市中へ行つた「DIBEN」

と云うレストランで、その箸袋には裏に皇后大酒家と書いてあるのが面白かつた。

八バンドンの 夜は更けて 十四日、七時半に車に迎えに来た。バンドン市裏のレンパン高地、チパナス温泉から、ブツツと燦岩の煮えたぎるタンクバンブラウ(二七〇米)の方を廻つて来た。途中中隊長や多くの人々が待つた。

チャヒと鎮成隊出身のアパス分団長が居た。ゲリラ部隊出身の男も居た。如何にも活動性に富み、現在青少年の指導をしてると云つた。ゲリラ部隊は「防衛義勇軍特設遊撃隊」で、通称「イ号勤務隊」と云い、一隊約五十名、三ヶ部隊編成され、特殊教育を施し、爪哇の東・中・西部に秘匿し置き、西部は此の附近に配置されたと云う。独立戦争には大変な働きをし、特に一九四九年一月以来、セヨジャカルタでのゲリラ部隊の活躍はよく知られてゐる

午後パティック工場見学後、私は郵便局へ行き、帰途バンドン駅方面迄廻つて来た。街路を拡げた爲めに様相が一変し、一寸見当がつき難かつた。駅前には物凄く広く駅正面のよく行つた食堂嘉賓等勿論隊方もない

更にバスサルボールの通りを通って来た。この道路も拡幅された。それでも果物や野菜やのバスサルはもう店じまいに近かったが、昔の面影を思い浮べさせて呉れた。

一九三〇分車が来た。一同敬意を表して背広を準備したが、寛いでとの市長の心尽しの長袖の上衣を贈られた。PETAの老青年は、赤や黄や紫やの花模様の上衣を着て、いきいきと若返り、華やいだ気分になった。市役所には、プリアンガン州各大同団長出身の市長・県知事・裁判官・警察署長、其の他有力者が待ち、三十余年振りの固い握手が交はされ、フセンバンドン市長の権迎の言葉の後、双方の挨拶、自己紹介と思ひ出話がなされた。

三十余年の時をへだてて見る曾てのPETAの青年達の、逞ましい姿と活躍振り、私は直接此の目で見る事が出来て、只嬉しいの一語あるのみである。フセン市長を始め何れも義勇軍に於ては、「SAMPAI MATI」(死ぬ迄)の精神で鍛えられた人々である。健康に注意して「サンペイマテイ」活躍されん事を祈るものである。隣室にはアトラクション

が準備してあった。私は腕をとって進められるままに坐つたら最前列の真中だった。主客が二人宛交互に坐つた。アンクロンの演奏が始めた。アンクロンは竹の楽器で、振るとカラ／＼コロ／＼と鳴り、一ヶで一音だけしか出ない。沢山上から下り下りあり、最初は一人で右に左に飛び廻りながら、次いで一人が一ヶ宛手に持って演奏した。次は歌だ。インドネシアの歌は歌だ。新しい歌、戦争中の歌。今は日本では聞かれぬ愛國行進やさくらさくら、愛國の花等大変なつかしい。「皆さんもごしよにどうぞ」と云うので三十余年前に返って歌った。舞踊になった。美しい踊りが一人で、続いて蝶に扮した三人の踊り子の優雅な舞は三保の松原の羽衣を想像させた。次は六／＼七才の男の子の、チモールと云う諸語味溢れた活発な踊りだった。

これ等新しい歌、古い歌優雅な踊りに陶醉した私共は、次いで室に溢れる天女の如き美姫の踊りに度胆をぬかれた。天女は暫らく音楽に合せて踊って立ち、やにはに私共の前に立ち、有無を云はさず手を引っぱった。私は思はず立ち上った。手の平を下にして私の

手の甲をさすり、更に他の手を上にあげてさするので私も彼女の手の甲をさすつた。ソッと隣の物を見たらしの様にしているので安心して。今度は拇指と食指で私の手の甲をつねった。私もその様にまねて手を次々上の方へとつまんで行った。そつと他の者を見たが皆そうしてのて安心した。しばらくしたら両手をとつてその手を振り、足を出したり引いたりするので又まねた。やがて他の天女が二人取り合つて四人一組となり右足を出しては元に戻し、左足を引いては元に戻した。始めはぎこちなかったが次第に滑らかに出来る様になった。九人の老青年は二十人七人の美姫に手を取られて踊り、バンドンの夜の更けるのを忘れ、時計の針のおそからん事を願った。フト竜宮城の浦島太郎を連想した。

最後に「皆さんがバンドンに來られた記念に……」とバンドンのバッヂを贈られ一同直ちに胸につけた。御礼の挨拶と共に再会を約して深夜の街をホテルへと帰った。

九 さらばバンドンよ 十五日、愈々今日はバンドンとお別れの日だ。朝食後ホテルのロビーで車を待

つてた。いつもの如く物売りの子供達が大笑した。今朝は新聞を持ってた。昨夜の市長訪問の記事が写真入りで大きく書かれた。第一番に市の東方丘上の英雄墓地に参拝、献花、黙禱を捧げた。私達の教え子である義勇軍や兵補出身者を始め、独立戦争の戦死者二七〇〇柱の墓標が左右整然と並んでいた。私共は心からその冥福を祈った。

次いでプリアンガン州庁を訪れた。長官は不在で副長官が、「PETAの皆さんの来訪は大変に喜ばしい日本の皆さんが義勇軍や兵補を強くなる様に教育して呉れたと同様、今後は経済発展に強くなる様に指導して欲しい。西部爪哇は日本人が非常に多い。インドネシアは現在食料が不足している。外国資本を導入して経済の発展を図っているが、その中四八％が日本の資本である。日本との合併会社がインドネシアの発展に尽くして呉れる事を望む」と挨拶を述べた。色々話をしてプリアンガン州のバッヂを贈られて辞した。州庁を出る時から私共の車は、憲兵曹長と伍長の運転する二台の白バイに依つて誘導された。

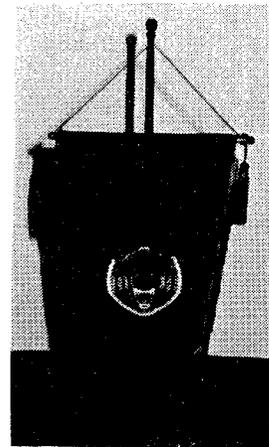
次は戦時博物館で館長ルックマンデワ氏は、「PETAを教育し、日本魂を

植えつけて呉れた事は大変有難い、オランダ時代にはこうした精神的なものは何もなかった。日本はそれを与えて呉れた。その日本の教育がどんなに有難かったかが思はれる」と挨拶した。続いてインドネシアで最も歴史が古く、且つ最強最精鋭を誇るシリワンギ師団を訪れた。司令部では師团长ヒマワン・スタンソン少将以下多数の高官が待っていた。一同握手を交はした後師团长は「この師団に皆さんが来て呉れた事を感謝する。こんなに強くなったのは、曾ってPETAの皆さんが誠心誠意教育して呉れたおかげで、大変感謝して。当師団は独立と同時に創立なので、三十三年の歴史を持つて。当師団はあらゆる方面で活躍して来た私達は皆さんに依つて敢闘精神を養はれて来た。それが此の師団となった。第二次大戦中は私はまだ子供だったが、父がスラバヤの大

団長だったので、私も小さい頃から銃術を習った。皆さんが訪れて呉れた事は本当に嬉しい」と云った。やがて皆さんに師団の旗を贈ると、師团长や准将・大佐等九名が我々一人一人に旗を手渡し、師団のバッヂを左胸につけて呉れた。

後日ジャカルタの街では此のバッヂを見て、「オー、シリワンギ」と感にたえた様な言葉を各処で聞いた。玄関前で記念写真をととり司令部を辞した。先導車はホテルホームマン迄誘導して呉れた。

いよ／＼バンドンとお別れだ。一時五分思ひ出の大会館・ホテルホームマンを後にした。車はアジアフリカ通りを西に向った。私は小声で「さーらばバンドンよ」を歌った。そして「バンドンよ、又必ず来るからね」と自分自身に誓った。



師団の旗

様相は一変してた。六ヶ月勤務したチマと錬成隊跡も尋ねられず残念だったが、次回のおあつげかと思へば楽しい夢が又一つ出来たと云うものだ。危うく停虜になりかけた、バダランの入口三叉路、孤立に陥った

新曲「石橋山」創作の経緯

草燃えるに因んで

松本 孝作

源頼朝が平治の乱に敗れ蛭ヶ小島に流人として、苦節二十年の歳月を経て、石橋山に挙兵し、寡兵よく戦ひしも善戦及ばず、遂に一敗地に墜れ、安房路をさして逃れたのであります。

ここに於て頼朝は、諸州の源氏をあつめ、鎌倉を拠点とし、勢を盛り返し平家追討のノロシ挙るや、先づ富士川を手はじめとして、敵の大軍を敗走せしめ、続いて各所に戦ひ、遂に壇の浦に追ひつめ、平家一族を討ちこぼすことが出来ました。

頼朝は天下を平定し、鎌倉に幕府を開き、武家政治の基を礎いたのであります。即ち英雄頼朝の創業こそ実に我が国史の上に、燦然たる光を放ち、中世日本歴史の変革は、六百数十年の

チバタット小哨の位置、パンドンとの連絡を遮断されたので、反対側チャンネルへ行くとしたが、之又通せんぼされた橋等々を通り、車は一路ジャカルタへとひた走りに行った。

徳川幕府に及び、絢爛たる武家政治は、日本歴史の豪華なる絵巻として、人心を躍動せしめ、その礎をきつ

いた創業は、蓋し石橋山合戦を序幕としての、戦記であることを忘れてはなりません。

さて昭和五十五年は、石橋山挙兵八百年祭に当る年地元では、目下盛大なる式典を、行ふべき準備が進められて居ります。

恰も、NHKで「草燃える」が放映され、小田原を中心として、現地史蹟の見学に訪れる人達のため、多彩なる歓迎の施設をなし、観客案内のため、史蹟めぐりのバス「草燃える号」を増発も、元且早々から動きはじめました。このときを期し私は「琵琶橋山」の創作について

「琵琶橋山」の創作について聊か述べて見たいと思ひます。

私は石橋山の麓に住んで居り、徒歩で十分ばかりで行けます、私が昭和二十七年小田原市合併前、片浦村助役として役場に入りまし

た、その翌年、片浦村が神奈川県から、社会教育指定村として、推薦を受けました、そのとき、事業の一環として、史蹟石橋山を取り上げ、これを保護顕彰なすべき議が、一決致しました

そしてこれを琵琶の創作により、普及することになったものであります。

これには二つの大きな理由があります。その一つは琵琶にも謡曲にも、頼朝七ひに敗れて逃げて行くところを、歌ったもので、し

かし戦ひの場面が歌はれて居らぬことは、聊かおかしな、もう一つは、戦後琵琶は全く影をひそめてしまひました。

これは一体どういふことかといへば、軍国主義の歌といふことで、一般から嫌厭されたことが、大きな原因でありましよう。

しかし昭和二十五年、文化財保護法が発令され、戦国とは云え、日本民族は、伝統ある国民性がある戦後腐爛せる神社仏閣は見

るに忍びず、これを清掃し、保護せねばならないといふのが、この法令の精神であり、同時に不振を極めていた琵琶が、古典芸能としてここに浮び上り、復活の機運が開けたのであります。

その意味に於て、本村がここに着眼し、機を逸せずそのトップを切つてこれを採択し社会教育事業として石橋山と銘打ち、創作に着手した所以であります。

そして着々創作にかかり教育長松井頭宗氏が原作をまとめ、不肖助役松本が琵琶調に節録し、作詞は浜名高校の小野鶴彦先生の手になり、作曲は琵琶界の大御所榎本芝水先生により、また詩文は漢学者鈴木長三先生、最後史実の内容については、史学大家である、中野敬次郎先生の監修のもとここに完成し盛大なる発表会を開催致すことになりました。

ることになってしまいました。

かような次第で、石橋山も有力な琵琶人からの、批評も寄せられることになりました。その声を聞くに、この作はあまりにも大きなもので、演奏会にも時間がかかる、もっと歌い易いものをはしいといふことになり、これを引き受けたのが野地鶴山先生であります。

野地さんは、石橋山の創作についても、終始配慮を煩はして居ったのであります。

そして今回は、一般の要望に応へ、曲名を「佐奈田与一」として創作に当たるところ、はからずも、文学者原田謙次氏の知るところとなり、更にこれに補筆をなし、未完成のまま、昭和三十二年三越劇場に於て、大館先生の主催による演奏会にて、野地さんは試演を致しました処、大喝采を博したのであります。

しかしこれも未完成であったので、所定の時間を超過するので、更にこれを縮ませねばならぬことになりました。

その後、小田原地方を中心とし、俄然琵琶熱が盛り上り、県教育事務所からは特に社会教育事業として、史蹟顕彰に対し、琵琶の組み合せは、まことによい着眼であったといはれ、絶讃の辞を送られたのは、私も地元として、これが普及につとめねばならぬのでこの年から遂に琵琶道に入

ました。

野地さんは、最終的には改作を私に任せてくれました、私も色々手を加へ、漸やく所定の時間で歌えるようになりました。

昭和五十五年、石橋山挙兵八百年祭には、これを「石橋山」と曲名を改め、登場する運びになって居ります。

なほ最後に申し上げたいことは、石橋山の合戦は、白虎隊と同じく、八月二十三日の嵐の夜であります。そういふことで、この曲は一般から愛好されている白虎隊を型どり、作曲もこれと合せ、野地さんが点付つけたものです、そしてその内容は、先陣を受けた、佐奈田与一と、敵将伊野五郎との一騎打ちの場面をテーマとして創作したもので

す。

参考まで、佐奈田与一の歌詞を掲げて置きますが、昭和五十五年の演奏会には石橋山と曲名を改め、出演される手順になって居りますので、予め御諒承願ひます。

新作詞紹介

石橋山 改作 松本 柑水

いつしか天下の人心

穏やかならず波立ちて
嵐を呼ばむ雲の色
時こそ来れと頼朝は
以仁王の令旨を奉じ
蛭ヶ小島を逃れ出で
手勢すくって三百騎
石橋山に陣を布く
治承四年秋八月
後の三日の夜半の陣
大庭三郎景親は
三千余騎を引き従へ
潮の如く襲ひ来る
待ち設けたる源氏方
先陣としてむかへ討つ
折しも風雨しきりにて
閃く稲妻轟く雷
音凄まじき修羅の場
泥濘脛を没すれど
佐奈田は部下に
下知をなし
多勢をたのむ敵軍に
勢ひはげしく攻めかかる
その太刀先の鋭さに
倒るゝ敵の数知れず
右方左方に乱れ散る
進む折からさら／＼と
草摺りの音すれ合ふに
名乗りかくれば
あはよくも
目ざす敵將侯野なり
与一は声をはり上げて
われこそは
佐奈田与一義忠なり
いざ／＼勝負と
斬りかゝれば
敵もすかさず
ガツキと受け留め
互に死力をつくせども

いつかな勝負も
見えざれば
いざや組まんと
打ち物投げ捨て
組んずほぐれ
つまろびつゝ
上を下へとかへしけり
義忠力やまさりけん
遂に侯野を組み伏せて
首掻き斬らんと脇差を
抜かんとすればこわいかに
血糊にまみれし
その太刀は
無念や抜くこと得ざりけり
かゝるところに敵兵の
長尾新五新六達
かけつけ来り義忠を
どつとばかりに
組みしきけり
あゝ二十五才を一期とし
石橋山の夕闇に
身は露霜と消えしがど
佐奈田与一の功は
主君頼朝が
鎌倉幕府大業の
その礎としづまりて
霊はこゝに存すなり
この戦ひに頼朝は

武運拙なく敗れしが
やがて平家を打ち亡ぼし
天下を治めたりしとぞ
黒雲蔽天風雨荒
單身奮撃没し脛行
源氏再興石橋山
壮烈士風香扶桑
霸業なりたる頼朝は
佐奈田与一義忠の
非業の最後身にしみて
ゆかりの土地に御社を
祀りて永く後の世に
その面影ぞ残るなり
本文及び石橋山の歌詞は
昭和五十五年石橋山拳兵八
百年祭にそなへ、全国に周
知せしめんと思ひ、琵琶雜
誌「錦心」に投稿致しまし
た処、これが採択され、三
月号に掲載されました。
折角の機会でありますの
で、會員の皆さんに御披露
申し上げ度く会報に転載致
しました。
昭和五十四年四月三日
小田原史談会片浦支部長
松本 孝作

石橋山合戦の

史跡を訪ねて

高橋梢

・草燃ゆる石橋山を尋ね来て
吾が住む里はかくも美し
・朝つゆを路みわけのぼる畑道
わが影伸びゆくあさひ背にして

彼の武将かつてこの山越えにしか
道なき道はかくもきびしき
・落武者らいつこで傷を癒せしか
古き寺井の泉も枯れて
・この山頂山の神様鎮座すとふ
わが裏の山を知らず過せり
・わづかなる境界線に揉みに揉む
戦国に劣らぬ今の世の人はや
・幾百年時を越えて起伏せる
山々今は静かに清し
・山肌をけづりてわづかなる茶畑に
われらが生計支ふ現実
・音に聞く彈圧河原芝生いえぬ
靈視の地かはた地獄谷なるや
・背に箱根がたる嶺は夕茜
相模の海に輝り映え勝る

① 鉄道のはじまり
「前文」
日本の鉄道は、明治五年
五月七日(旧暦)品川から
横浜(現桜木町)まで一日
二往復で仮りに営業運転を
初めてから今年で、百六年
の歳月を迎えたので、この
タイム・トンネルの間にい
ろいろのことがありました
ので、これ等のお話を書く
ことに致しましょう。
② (この原稿は小学館の鉄

百六年を迎えた吾が国鉄と 外国鉄道の四方山

額田喜代春

道、其他交通博物館長藤
司平通氏、元国鉄理事藤井
松太郎氏等の著書を参考と
し、或は先達諸氏から聞い
た話を基にして私の長年に
亘る体験を加えて綴ったも
のであります。
(一) レールの発明
イギリスのストックトン
港とダーリントンという小
さな二つの町の間、世界
で始めて、鉄道が通ったの
は、百五十三年前の、一八
二五年九月のことで、それ
から一世紀半の間に、鉄道
は世界中に広まり、速くて
沢山の人や物を運ぶようにな
ったのですが、鉄道はレ
ルがなくては、沢山の人や
荷物を運ぶことは出来ませ
ん。
それでは、レールはどの
ようにして生まれたのでし
ょうか。
初めは木のレールでした
が、十八世紀の後半に、当
時のイギリスでは、工業生
産の上で、大きな変化が起
ったのです。
それは、これまでの工業
製品は、すべて、手造りで
ごくかんたんな器具を使っ
て作っていたが、能率のよ
い機械が発明されたり、水
車で動かしていた機械を蒸
汽機関で動かすようになった
ことで、むずかしい言葉
で、これを産業革命とい
います。そうなりますと、沢
山の製品が能率よく、生産
されますから、原料も、出
来あがった物も、一時に速
く運ぶ必要が起って来ます
そこで蒸気機関を動かすた
めに、沢山の石炭や、材料
を工場に運ぶ必要ができた
のです。
そして初めは、荷馬車で
運んでいたのですが、馬が大
型になると、普通の道路
では車輪が土の中にめりこ
んでしまいます。
そこで炭鉱では、車輪の

あたる部分に木の板や、石を敷いて、材料を積んだ荷馬車を通すようになり、それから間もなく、木よりも丈夫な鉄板を木の上にかぶせて、車輪を走らせるようになり、それから鉄板の断面の形をいろいろ工夫して、車輪が脱線しないように考えられ、最後に厚い鉄板を縦におき、枕木の上しっかりと固定して、上下をふくらませたI型のレールが発明されるようになったのです。

こうして石炭や原料を沢山積んだ重い荷馬車が、安心して通れる「鉄道」がイギリスの各地で用いられるようになったのです。

④(四百年程昔、ドイツのある鉱山では坑内の石炭の積み出しのため、すでに木のレールが使われていました。)

(二) 蒸気機関車の誕生

「鉄の道」が出来ても、最初はその上を走っているのは、馬の力でひかれていた荷馬車でした。

処がその後、ジェームス・ワットという人が、蒸気機関を発明して、馬に代って走る蒸気機関が出来たものか、多くの発明家達が考えて、出来たのが蒸気機関車だといわれております、けれども、この機関車は蒸気の出が悪く、少し走

るとすぐ動かなくなり、次の蒸気がたまるまで、一休みするという実用にはほど遠いものでした。

それから、はじめて、実用となる蒸気機関車をついたのは、有名なジョージ・スチーブソンでした。

この人は百五十三年前の一八二五年九月イギリスのストックトンからダーリントン鉄道の開業にあたって「ロコモーション」号という名の自分でつくった機関車を運転して、良い成績をおさめましたので、四年後の一八二九年には、レントヒルで行なわれた機関車コンテストでスチーブソンの作った「ロケット号」が優勝しましたので、その後

に開通した鉄道も、スチーブソンの蒸気機関車を使う所が多くなったのです。

(三) 公共鉄道のはじまり

それでも決められた運賃を支払い、鉄道規則を守れば自由に利用できる鉄道のことを公共鉄道といいます

面白いことは、最初は蒸気機関車は貨物列車を引く時だけに限られ、旅客列車は馬が引いたのです。

ついで、一八三〇年天保元年紡績工業の町、マンチェスターと大きな港町であるリバプールとの間に鉄道が通りましたが、ここでは旅客列車も貨物列車もす

べて蒸気機関車がひくことになりました。

それから鉄道が大変便利で、利益がある事業であることが、わかってくるとイギリスはもとより、ヨーロッパ大陸や、アメリカ大陸の国々でも、あらそって

鉄道をつくりはじめました。それで、今では、馬車や船(運河と河川も)で運ばれていた多くの貨物は、鉄道で運ばれるものが急速にふえ鉄道は、陸上交通の王者として発達をつづけて来たのであります。

(四) ゲージ戦争

ゲージとは二本のレールの間隔のことで、一八三〇年頃には、世界各国で沢山の鉄道がつけられました。それぞれ鉄道の勝手にゲージを決めて建設したので直通運転ができなくなり大変不便でした。

そこで、機関車の発明家を支払い、鉄道建設を指導してきたジョージ・スチーブソンは、早くから

イギリスの鉄道は同じゲージで作らなければいけないと主張し、それには四三%の幅でつくるのが、最もよいといっていました。けれども、グレート・ウエスター

ン鉄道の技師長ブルーネはもっとスピードを出し、大型の車輛を走らせるためには、ゲージは広い方がよい

といつて、三三%の幅で鉄道をつくってしまいました。そこで、いろいろ検討した結果、スチーブソンのいう通り、将来の鉄道は、すべて四三%のゲージで建設することに決めましたが、グ

レート・ウエスターン鉄道だけは五十年以上にわたって独自のゲージのままの運転をつづけております。これをゲージ戦争と呼んでおります。

しかし現在では、スチーブソンの主張した四三%のゲージを標準軌間といい、ヨーロッパの大部分の国、アメリカ、カナダ等が使われております。そしてこれより広いものを広軌、狭いものを狭軌と呼びます、日本の国鉄では大部分は狭軌です。

ゲージ戦争はイギリスばかりでなく、その他の国でも起りました。アメリカ合衆国やカナダの鉄道では、二二%のゲージに統一されるまでに、長い歳月がかかりました。亦、オーストラ

リアでは、とうとう話し合いがつかず、各州がそれぞれ勝手に決めたゲージで建設を進めてしまい、現在でも貨車の直通運転が出来ないで困っていると聞いております。

かつて日本でも、明治三十七、八年の日露戦争の当時、こうした問題で兵隊や物資の輸送に困まり、遂に議会で問題となり明治三十九年の国会で法律により全国の主なる私鉄十七社を買収して国鉄としたのであります。

(五) 大陸横断鉄道の完成

鉄道が世界中に拡がって行くなかで、アメリカ大陸のような広い大陸の内部に次々と鉄道が建設されてゆきました。そして鉄道が海岸の町から次第に内陸部にのびて行くと、これまで交通が不便であったために、開発できなかった広い土地に農園や、鉱山が開かれ、工場等がつくられるようになります。

あの広いアメリカ合衆国やカナダの開発が進んだのは、まさに鉄道のおかげです。

アメリカ合衆国の大西洋岸から内陸に向かって建設した鉄道は一八六九年遂にロッキー山脈の中、プロモントリーという処で、はじめてつながりました。この時、両方の会社の社長が金製の犬釘を打ってレールを

継なぎ、アメリカ全国民がお祝をしました。これが最初の大陸横断鉄道です。

その後、アメリカ合衆国では、更に多くの大陸横断鉄道が完成しましたが、一

八八七年と一九一四年にはカナダにも大陸横断鉄道が完成してあります。

それからシベリアの開発にも、鉄道は大きな役わりをはたしました。

シベリア横断鉄道が開通して間もなく起った日露戦争では、ヨーロッパから沢山の軍隊が日本と戦うため、続々とアジアに送りこまれ、鉄道が戦争にも大いに役立つことを証明しました。

現在では飛行機の発達で何日もかかる大陸横断鉄道を使って旅行する人は少なくなりましたが、大量に運ぶ必要のある貨物輸送の点では、大陸横断鉄道は大変重要な役割をはたしております。

(つづく)

本年も予定の会報を出したいと思っておりますので会員の皆様のご投稿を御待ちして居ります。

史跡廻りの坂東三十三観音めぐりも三回目になり、近日一泊で埼玉方面を廻る事となって居りますが、好評で多数御参加下さいます事を御願申しあげます。

尚七月には市内の仏像を中心とした史跡廻りを計画して居りますので御参加を御待ちして居ります。杉崎

編集部より